

東海道で旅気分 五十三次 —富士に琳派に若冲も—

岡田美術館（箱根・小涌谷）24.06.09～09.12（前期）09.13～12.08（後期）



本展は、東海道五十三次の最後の宿場「庄野宿」完成から400年、箱根駅伝第100回の節目の年を記念しての開催で、展示室では、歌川広重「東海道五十三次」（保永堂版）を中心とした特別展が開催されている。富士山を描いた絵画の名品や、京都の人気絵師「伊藤若冲」と「円山応挙」に、「広重」と同時代に活躍した江戸琳派の「鈴木其一」らの作品約30点が見物である。

<本展の見どころ>

1. 江戸時代の美術と楽しむ東海道

江戸時代は、絵画・工芸ともに豊かな個性を備えた画家・作家が全国各地で活躍し、ジャンルを問わず多彩な作品が生まれた時代で、東海道にちなんだ作品が展示され、「尾形光琳」の実弟である「尾形乾山」のやきものに加え、江戸琳派の「酒井抱一」「鈴木其一」などの作品と賑やかな顔ぶれが揃っている。

歌川広重 《東海道五十三次 日本橋・朝の景》 江戸時代

55枚の大作が始まる「日本橋」は、時刻は夜明け前まさに一日の始まりで、日本橋を真正面からとらえ、その向こうから大名行列が姿を現す瞬間である。

歌川広重 《東海道五十三次 箱根・湖水図》 江戸時代 チラシ下部

突兀たる岩山が画面中央に屹立し、岩面に施したモザイクが際立つ作品は、湖水を取り巻く山々が画面左に低く連なり白抜きの「富士山」描かれている。

歌川広重 《東海道五十三次 蒲原・夜の雪》 江戸時代 チラシ上部

静寂感と雪の質感の的確な表現は、前景の山と後ろの山との間の薄墨にわずかに藍を混ぜた刷り物があって、情趣が深くて独創性のある作品である。

歌川広重 《草津・名物立場（たてば）》 江戸時代 チラシ中部

草津は、東海道と中山道の分岐点で、草津名物の「うばもちや」の看板があり、店の賑わいを丹念に描いて名物を楽しむ姿は、画面に活気を与えている。

2. 富士山さんと行く、東海道五十三次の旅

3. 名所旧跡からグルメまで、旅情報が盛りだくさん

他に、特集展示「源氏物語の世界」：平安時代中期（11世紀）に、紫式部が記した『源氏物語』が好評で、『源氏物語絵巻』（12世紀）が絵画化され、ゆかりのある絵画工芸品「10数件」により源氏物語の世界を楽しむことができる。